

カーストの壁を取り壊す

ナビ・ピライ
国連人権高等弁務官
2009年10月19日

先日、アジアのカースト差別を受けている集団の代表から取り壊したトイレの壁のレンガのかけらをいただいた。レンガは“低位カースト”の人びとに素手で公衆トイレを掃除させてきた慣行に反対する地球規模の闘いを象徴していた。この慣行は、決して労働者自らが選んで就く職業ではない。むしろそれは社会的出自と世系により受け継がれてきた。そして、これら差別を受けてきた人びとはその仕事によってさらに“汚され”、社会的排除と周縁化の世代的サイクルに陥らされる。

今、被差別集団や市民社会の活動家は平等と非差別の新しい国際基準を推進することで、さらに大きくて目に見えない差別の壁を壊そうとしている。私は彼/彼女たちの決意と勇気に心より敬意を表したい。アパルトヘイト下にあった南アフリカで育ったカラードのマイノリティ女性である私は、差別について多少は知っている。

“不可触性”は世界全体で約2億6千万人の人びとに影響を及ぼしている事象である。このタイプの差別は主に浄・不浄の観念と結びついていて、様々な社会や文化に深く根を下ろしている。問題は一つの地理的地域に限定されるものではないし、一宗教の思想体系の中だけで独占的に実施されているものでもない。これは地球規模の事象である。

カーストは平等と非差別の人権原則をまっこうから否定している。それは個人を誕生時から規定するものであり、その集団に搾取、暴力、社会的排除、分離の生活を強いるものである。カースト差別は人権侵害だけではない、差別を受けている人びとを市民的、政治的、経済的、社会的そして文化的権利の侵害に無防備に曝す。

“低位カースト”にある人びとは、しばしば、代々続く低所得の雇用だけに制限され、農耕用の土地や貸付の利用の機会を奪われている。彼らは大きな負債を抱えていたり、債務労働に縛られていたりする。まさに現代的形態の奴隷である。裁判や救済を求めれば恐ろしい妨害に遭う。世系に基づく集団の中では子どもの労働がはびこっていて、“低位カースト”の子どもたちの非識字率は非常に高い。女性にとって、カーストは貧困と差別の被害をさらに悪化させる増幅器である。

この惨劇をなくすために多くの国で法律や政策がとられてきた。憲法はカーストに基づく差別を禁止し、“低位カースト”の人びとは高位の役職に就いてきた。特別法が施行され、教育や雇用でのアファーマティブアクションや、暴力や搾取からの保護措置がとられてきた。裁判所は法律を実施し、被害者への救済を求めてきた。研究機関は“低位カースト”集団のために状況を調査し、政策を提言してきた。

国際的には、人種差別撤廃条約が人種差別の根拠の一つとして世系を明確にとりあげている。2001年の反人種主義世界会議で採択されたダーバン宣言と行動計画は、世系に基づく差別を認めている。宣言と行動計画はまた、人種差別と闘う包括的なロードマップを指し示し、それは今年4月のレビュー会議で再確認されている。

しかし、カーストに基づく差別を解決するための社会政策とプログラムの必要性は強く残る。深く根を下ろした世系に基づく偏見、慣習、信条、伝統を変えることができる教育プログラムの実施は不可避である。それ以上に、カースト差別を受けている集団は、彼/彼女たちのエンパワーメントを目指した戦略の作成、実施そして評価に意見を述べ、全面的に参加できるように保障されなくてはならない。国際社会は、アパルトヘイトに終焉をもたらしたように、一致団結してこれら取り組みを支援すべきである。忌まわしい形の周縁化と排除を生み出し、被害者を絶望と貧困の淵に陥れるこの行為は余りにも長く続きすぎた。カーストの被害者はみな救済を求めており、それを受けるに充分値する。数億の民の苦境は昔からの伝統の産物であるとして正当化できないし、単なる“お家の問題”として見なすこともできない。

人権理事会は「職業と世系に基づく差別の効果的撤廃のための原則と指針案」を推進すべきである。これは既存の非差別の国際基準を補完するものである。すべての国家は結集してこの規範を支持しなくてはならない。恥ずべきカースト概念を根絶する時は訪れた。奴隷制やアパルトヘイトなど克服できないと思われた壁はすでに取り壊された。私たちはカーストの壁もまた取り壊さなくてはならない。